



しゅぶと川



着々と完成が近付く体育館 ～3月1日撮影～

contents

主 な 内 容

平成28年第4回定例会

②～③ 補正予算、条例の改正など

⑥～ 一般質問(5人の議員が質問)

委員会報告

③～⑤ 決算審査特別委員会ほか

臨時会

⑤

第197号

平成29年3月9日発行

ブナ北限の里
KURUMATSUNAI

町民体育館備品購入費など 一般会計1億3,434万円を増額

去る12月12日、平成28年第4回定例会が開かれた。一般会計補正予算など町長からの提出議案のほか、議員提出による意見書案など21の案件を可決。また、議員5人による一般質問が行われ閉会した。

補正予算

一般会計

▼道の駅、ヒザ工房増築に係る工事費、町民体育館備品購入の経費、世界文化遺産・西予市交流体験学習を社会教育事業として実施するための補助金など、1億3,318万6千円を増額。

▼給食センターの煙突内断熱材から石綿が検出されたことから、煙突部の囲い込み及び代替煙突を設置をするための工事費として1,14万5千円を増額。
(全員賛成で原案可決)

簡易水道特別会計

▼工事の入札結果等により、75万5千円を減額。
(全員賛成で原案可決)

下水道事業特別会計

▼交付金配分額の減額等により2,657万9千円を減額。
(全員賛成で原案可決)

老健施設事業特別会計

▼工事の入札結果により86万4千円を減額。
(全員賛成で原案可決)

後期高齢者医療特別会計

▼平成27年度決算の確定により29万8千円を減額。
(全員賛成で原案可決)

国保診療所事業特別会計

▼新診療所建設のための基本設計業務の委託に当たり、年度内に業務を完了できないことが

ら必要な業務期間を確保するために繰越明許費を設定した。

▽診療所基本設計業務委託料730万円
(全員賛成で原案可決)

委員会付託

▼総合体育館の建設に伴い黒松内町総合体育館条例が提案され、慎重な審議をするために町民体育館建設等調査特別委員会へ審査を付託した。

改正された条例

▼人事院勧告に基づき、職員の勤務時間、休暇等に関する条例及び黒松内町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正し、育児や介護が仕事と両立しやすい内容とした。
(全員賛成で原案可決)

▼国の法律の改正に伴い、町税条例の一部を改正し延滞金の計算の基礎

となる期間の見直し等を行った。
(全員賛成で原案可決)

▼日本と台湾間で締結された日台民間租税取り決めに伴い、国民健康保険税条例の一部を改正した。
(全員賛成で原案可決)

▼国の法律の改正に伴い、黒松内町新規就農者等支援条例の一部を改正し、規程の整理を行った。
(全員賛成で原案可決)

報告

定例監査の結果報告

▼町民体育館新築主体工事ほか2件の現地調査を行い、事務及び施工とも適正に行われている旨報告された。

例月出納検査の結果報告

▼平成28年8月分～10月分の出納検査の結果、誤りは認められなかった旨報告された。

行政報告

町行政報告

▼11月16日に全国町村長大会に出席し、一億総活躍社会の実現に向けた地方創生の推進の決議案等について決定した。

▼農作物の生産状況は、平年並みか作物によっては不作傾向となった。台風や長雨の関係から一部収穫作業を断念した生産者はいるが、それ以外のものはJAの受入が終了した。

教育行政報告

▼11月28日に給食センターと白井川中学校において空気中石綿粉じん濃度測定及びアスベスト含有調査を実施した。結果は両施設とも大気汚染防止法で定められている基準値以下であり、当該煙突が使用されているボイラーのものではないが、より



石綿が検出された給食センター

安心、安全な学校施設環境とするため、現在の煙突を使用しないことを基本とする判断をした。給食センターは代替煙突の設置及び未使用の煙突部の囲い込みによる対応、白中は施設の構造上代替煙突の設置ができないことから、新たな暖房設備の設置をすることで対応を考えている。本件については平成26年以降に関連する規則等の改正及び特定調査が行われていたが、教育委員会として理解が不十分であり、2年間にわたり点検等を怠り今回の対応となったことをお詫びする。

意見書

3件の意見書を可決

件名	発議者	結果	提出先
地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書	蛭沢儀弘	原案可決 (全員賛成)	国会、内閣
大雨災害に関する意見書	福本誠一	原案可決 (全員賛成)	国会、内閣
JR 北海道・JR 四国・JR 貨物に係る税制特例の恒久化等を求める意見書	蛭沢儀弘	原案可決 (全員賛成)	国会、内閣

委員会報告

～各委員会の活動～

- ブナの森診療所改築等調査特別委員会
- 町民体育館建設等調査特別委員会
- 朱太団地改修等調査特別委員会
- 決算審査特別委員会

ブナの森診療所改築等調査特別委員会

11月24日に委員会を開催し、第4回臨時会に行った中間報告に対して町から返答を得た。

町からは、商工業への経済的効果や診療所を利用する患者さんの利便性を重視し、生活改善センター周辺を建設場所とする旨説明があり、委員会としても町長の決断を尊重し建設場所について了承した。

平成31年秋に開所の予定となっているが、安心な医療を一日でも早く町民へ提供できるよう早急に事務を進めてもらうよう提言した。

町民体育館建設等調査特別委員会

第4回定例会に上程さ

れた総合体育館条例について、使用料や開館時間に関しては議会において慎重に審議する必要があり、2月3日に委員会を開催し、平成29年第1回定例会において次のとおり提言した。

2月3日に委員会を開催し、平成29年第1回定例会において次のとおり提言した。

委員会審査中間報告

(1)新町民体育館については、町民の使用料を無料とし、条例に明記すること。

(2)利用時間については、当面提案のとおりとするが、利用状況に応じた柔軟な対応を検討されたい。

朱太団地改修等調査特別委員会

朱太団地の外構工事が完了し、11月29日に現場視察を行った。

駐車場の安全対策等の課題は挙げられたが、当初の目的であったE棟で生じた不具合をF棟建設時に改善することについては達成されたことから、委員会としては平成29年第1回臨時会において次のとおり報告し、本件の調査を終了した。



現場視察 (11月29日)

委員会調査報告

朱太団地E棟での不備・不具合は適切に改善されており、それらはF棟の建設に的確に反映されていた。

しかしながら、外構整備に関してはD棟駐車場の一部について安全対策が不十分であると考えられるため、十分な安全対策を講じること。

また、入居者から要望のあったA棟を初めとする既設住宅の不具合に対しても、きめ細かな対策が講じられているところではあるが、今後も不具合に対しては、適宜、修繕等対応されること。

公営住宅は、町民の安心・安全な生活の基盤として重要な役割を担っているため、今後も公営住宅の整備に当たっては万全を期すこと。

平成27年度決算を認定

決算審査特別委員会

平成27年度各会計決算について、特別委員会を設置し、11月24日と25日の2日間、にわたって審査を行った。委員会の審査意見をもとに、各会計決算を第4回定例会にて認定した。

一般会計歳入では、昨年度と比較して町税を含む自主財源、地方交付税を含む依存財源とともに減額となった。地方交付税の収入全体に占める割合は54・3%と半分を占めており、地方交付税に頼らざるを得ない財政状況になっている。

各会計決算額

一般会計	歳入	42億2923万8千円
	歳出	40億3753万2千円
簡易水道特別会計	歳入	1億576万5千円
	歳出	1億486万3千円
公共下水道事業特別会計	歳入	2億3349万9千円
	歳出	2億3140万7千円
国民健康保険事業特別会計	歳入	1億9096万1千円
	歳出	1億8790万4千円
老人保健施設事業特別会計	歳入	5886万9千円
	歳出	5886万9千円
後期高齢者医療特別会計	歳入	4406万4千円
	歳出	4392万1千円
合計	歳入	48億6239万6千円
	歳出	46億6449万6千円

特別委員会

質疑応答

朱太川の鮎の確保と増殖について

問 全国利き鮎会で朱太川の鮎がグランプリを受賞し評価を得たが、資源が少なくなめつたに食べられない状況にある。これを機に一定量がとれるような昔の川にしていって、いくことを本気でやってみる必要がある。計画的に内水面の整備をする予定はあるか。(山右澤委員)

答 企画環境課長
グランプリをいただいたこのタイミングで、今後どう展開していくか重要なところだと思っている。まずはアユ資源を減らさない、確保するために産卵場の造成を実施したい。さらに、河川管理者の北海道とも協議しながら下流域の産卵場の復元に取り組んで行きたい。

問 朱太川の大事な資源を守る重要な位置に朱太川漁協があるが、人材と財源がない中で活動している。町としてそういうことも加味した取組を検討できないか。(菅原委員)

答 鎌田町長

(菅原委員)

私としてもグランプリ受賞を契機として、まちとして取り組んでいかなければならないと思っている。アユの増殖事業については朱太川漁協の大きな役割のひとつであり、ここ数年は放流による増殖をやめて自然産卵を行っている。今後何とかが自然産卵、あるいは人工孵化という部分にもっと力を入れて欲しいと思っている。まずは、漁協としっかりと相談して、一定の方針を出した上で、そこに対してまちとしても支援していきたい。

福祉バス停留所の増設について

問 福祉バスは運用が始まってから20年以上になり、利用者も増えてきて

いる。高齢者にとって少しの距離でも歩くのは負担になるため、郵便局や商工会の付近に停留所を増やすことはできないか。(菅委員)

答 鎌田町長

(菅委員)

福祉バスの運行については、ちょうど見直しの時期も来ているという思いはあるが、どこまで細かく対応できるのか難しいところもある。皆さんの要望も聞きながら路線変更に合わせて、既存の施設の中で何とかできないか検討したい。ただ、停留所のことだけでなく、時間帯の問題などいろいろな部分に関わってくるので、あわせてしっかりと検討していく。



きめ細かな対応が求められる

決算審査特別委員会 審査意見

一般会計

○ 本町の豊かな自然と生物多様性の取組が実を結び、朱太川産の鮎が全国利き鮎会でグランプリを受賞したことは本町にとっても誠に栄誉なことであります。

今後、優れた朱太川水系の水質調査を継続しながら、関係する朱太川漁協とも十分に協議し、鮎資源の確保と増殖に向けた取組に積極的な施策を展開していただきたい。

高齢化の進展に伴い、利用者が多くなっている福祉バスについては、路線の見直しも含め、公共性の高い施設を停留所に加えるなど利便性の向上に配慮していただきたい。

簡易水道特別会計

○ 意見なし

公共下水道事業特別会計

○ 意見なし

国民健康保険事業特別会計

○ 意見なし

老人保健施設事業特別会計

○ 意見なし

後期高齢者医療特別会計

○ 意見なし

臨時会

第5回

平成28年11月29日

【行政報告】

町行政報告

▽特別職報酬審議会を開催し、期末手当支給率の引き上げ改定について諮問した。諮問どおり引き上げるべきとの答申を得た。

▽寿都医師会の経理問題については不起訴処分となったが、町民からの信頼を損なう結果となったため関係職員及び町長、副町長を減給処分とした。

教育行政報告

▽石綿の規制に関して、本町では平成18年に工事等にて対応を終えた。その後、平成26年に石綿障害予防規則が改正され、煙突用断熱材など規制対象が追加になったため今回改めて

調査した結果、給食センターと白中の煙突部分において該当する建築材料が使用されていることがわかった。

▽簡易水道特別会計
6万7千円減額

▽公共下水道事業特別会計
1万4千円減額

▽国保事業特別会計
5万7千円減額

▽国保診療所事業特別会計
2万円減額

【専決処分】

▽車両事故による損害賠償額を5760円と定めた。

【補正予算】

▽人事院勧告に伴う給与の引き上げ

▽人事院勧告に伴う職員の月例給の引き上げ、勤労手当の0・1月分の引き上げのほか、議会議員及び常勤特別職に係る期末手当0・1月分の引き上げにより不足する額を増額したほか、共済費の減額による差引きで各会計において減額となった。

一般会計

▽61万5千円減額

簡易水道特別会計

6万7千円減額

公共下水道事業特別会計

1万4千円減額

国保事業特別会計

5万7千円減額

国保診療所事業特別会計

2万円減額

【条例】

給与に関する条例改正

▽人事院勧告に伴い、議員報酬のほか各給与に関する条例の一部を改正した。

(全員賛成で原案可決)

第1回

平成29年2月3日

【行政報告】

教育行政報告

▽石綿対応状況
給食センターは1月20日から22日に代替煙突工事を終え、23日から通常どおり使用している。白井川中学校は、排気口の設置で使用可

能なボイラーを購入することとし、煙突の囲い込みに係る工事費とともに補正予算で対応する。

▽簡易水道特別会計
6万7千円減額

▽公共下水道事業特別会計
1万4千円減額

▽国保事業特別会計
5万7千円減額

▽国保診療所事業特別会計
2万円減額

給与に関する条例改正

▽人事院勧告に伴い、議員報酬のほか各給与に関する条例の一部を改正した。

(全員賛成で原案可決)

【契約】

▽目的

体育館備品(トレーニング機器等) 購入事業

▽契約金額

907万2千円

▽契約の相手方

(株)大星池田商店

(全員賛成で原案可決)

【委員会報告】

朱太団地改修等調査特別委員会から、調査報告があつた。(3ページ参照)

一般質問

田中春治議員

◆人口減少に歯止めをかける具体的な対策を町は考えているか。

◇地方創生の総合戦略を具体化し、子育て支援の強化や若者の町なか居住を進める住宅整備などを柱にこの課題に取り組んでまいりたい。



質問 黒松内町の人口は、1995年の7438人をピークに、現在では2980人にまで減少しています。また、24年後の2040年には2009人となる推計もあるなかで、このままでは、農業、商工業、自治体にも大きな影響を与えることとなります。

本町においては、子供が生まれることにより人口が増える自然増の部分については、昨年よりも5人多い14人というところで、今まで町が実施してきた子育て施策の効果がこの結果をもたらしているものと評価できますが、社会増という部分でいえば、若者の住む住宅が不足していることや、若い女性が黒松内に定住しづらいというマイナスイカと課題があるのではな

黒松内を託す意味でも、住宅を整備して若者の町なか居住を進めたり、町に人を呼び込む方策を今私たちが実行し人口減少を食い止めなければならぬと考えておりますが、この人口減少問題に歯止めをかける具体的な対策について、町長の考えを伺います。

本町における人口減少問題に関しては、転出入の差である社会減よりも出生と死亡の差である自然減が主な要因となっております。これを年代別に見ますと15歳から19歳までは転出する方が大きく上回っており、逆に、20歳から24歳までは転入が転出を上回っています。しかし、同年代の女性に関しては転出も多くなり、世代的に転入されれば若い世代の女性が定着できずに町外に転出してしまふという動きが見られます。

具体的に申しますと、一つは、福祉の町として充実した医療・福祉を基盤として生涯活躍できる健康志向の町、二つ目は地場産品を活用した食や美しい村の体験型ツーリズムを推進する食を中心

としたクリエイティブな経済づくり、三つ目は町営塾の運営やひとり親の就労支援を目指す子育てしやすい多様な働き方ができる町、四つ目は若者の地域活動の拠点づくりなどを目指す若者が楽しく取り組める若者主体のまちづくりであります。特に子育て対策については、高校生までの医療費無料化をはじめ、子育て世代包括支援センターの運営、出産祝い金の交付など、今までも重点施策として取り組んでまいりましたが、今後より効果的な施策の実施に向けて検討を重ねていくところであります。

また、定住に向けての住宅関連の施策については、自家住宅の建築・取

答弁・鎌田町長



田中春治議員 6~7

◆人口減少に歯止めをかける具体的な対策を町は考えているか。

蛭沢儀弘議員 7

◆白井川地区への福祉施設誘致について、法人側との協議の進捗状況と誘致を見直す考えはないか。

菅一議員 8~9

◆国道・道道沿いに住む高齢者世帯は除雪車による置き雪に大変苦勞されているが、町として対応が必要なのではないか。
◆高齢者の一時預かりについて、緊急時でも対応できるように制度を充実させるべきではないか。

忠鉢廣喜議員 9~10

◆子育て支援対策の一環として、学校給食費の無料化を実施してはどうか。

岩澤史朗議員 10~11

◆2030年札幌開業を目指す北海道新幹線のトンネル残土の問題は新聞でも大きく取り上げられているが、町としての対応はどのように考えているか。
◆現状の福祉バスの他に利用者の希望に添ったきめ細やかな移送サービスに対応するため、デマンド型バスのような小型車の導入を検討してはどうか。



紙面の都合で質問内容を要約して掲載しておりますので、ご了承願います。

せつとら

得奨励金やリフォーム支援事業、町営住宅整備、若者の住宅料補助など、定住対策の充実に努めてまいりましたが、議員ご指摘のとおり、人口減少の問題は、地域経済の縮小につながる、それが人口減少をさらに加速させてしまうという負の循環

に陥るおそれがあります。これからは、民間や福祉法人の力も借りながら町有地も有効に活用し、若者が町なかで暮らせる住宅整備の仕組みを構築することが重要だと考えております。そうすることで町内商店の購買力も向上し、若者同士、さら

には町民との交流も生まれてくるのではないかと思っております。まずは、できるだけ即効果が得られそうな施策のことを考えながら生涯活躍のまちの実現に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

蛭沢儀弘議員

◆白井川地区への福祉施設誘致について、法人側との協議の進捗状況と誘致を見直す考えはないか。

◇緑ヶ丘ハイイツをユニット型60床、多床室20床とし、建設費は8億円となる説明を受けておりますが、事業主体である法人が責任を持って実施するのであれば過去の福祉施設建設時と同様に上限を設けて助成することを検討しております。



〔質問〕白井川地区への福祉施設誘致については、

町長の当選時の公約であり、併せて住宅の整備や雇用の確保、コンビニエンスストアの誘致等を進めて白井川地区の活性化を図ることが目的であったと記憶していま

すが、前回定例会で伺った町長の二期目に向けた施策には、この福祉施設誘致のことが抜けていたのではないかと思います。町民やハイイツ職員の中には、新規に別の施設を誘致するのであれば問題はないが、緑ヶ丘ハイイツを丸ごと持って行くのであれば、職員の通勤や業者の配達に関すること、入所者や利用者の家族に関することなどについて心配する声があり、私自

身も白井川地区に緑ヶ丘ハイイツを福祉施設として誘致するのは非常に問題があるのではないかと思っておりますし、これが人口減少対策であるとしても、白井川地区の人口は増えるかもしれませんが、市街地から移っただけでは町全体で考えればプラス・マイナス・ゼロではないかと思えます。私は今一度、福祉施設の白井川地区への誘致については、町民の声をも

う少し聞いた上で判断していただきたいと思っておりますが、法人側との協議の進捗状況と町長の考えを伺います。

答弁 鎌田町長

前段、白井川地区への福祉施設誘致が私の二期目の公約になかったのではないかというお話をいただきましたが、これは公約にないということではなく、一期目でやり残した事業であるという認識を持ってあります。白井川地区への福祉施設誘致は、私が町長就任以来、雇用や住環境の整備等も含めて地域の活性化対策として積極的に取り組む考えを申し上げ、市街地に集中する福祉施設の一部機能を白井川地区へ移転できないかどうか、具体的には緑ヶ丘ハイイツの移転改築に合わせた検討が可能かということ等を法人に打診していたしました。このことは、町としても人口減少対策の一つになり白井川地区の振興が図られ、また法人側としては財政的負担の軽減が図られ地域福祉の貢献にもつながるといこと

で、双方にとつて効果が期待できるという思いが一致して前広瀬理事長の時代から現在までその意思が引き継がれ、法人内部でも協議が進められているものであります。ご質問のありました、法人との協議の進捗状況ということですが、9月20日に谷口理事長から受けた概要説明では、ハイイツの構造は木造とし延べ床面積3952㎡、定員はユニット型60床、多床室20床の計80床で、概算の建設費は8億円。これに対して国庫補助等が2億5000万円で補助残の5億5000万円を折半し、町に負担していただきたい旨の申し出を受けました。

また、人口減少対策としては増減がないというご指摘もいただきましたが、単純に人口を増やすということだけではなく、いかに減少を緩やかにするかどうかとも対策の一つではないかと考えております。いずれにしても、事業主体はあくまでも法人でありますので、入所者や職員の確保はもとより、職員も含めた法人内部の意思統一もしっかりと進めていただきたいと思っております。

菅一議員

◆国道・道道沿いに住む高齢者世帯は除雪車による置き雪に大変苦勞されているが、町として対応が必要なのではないか。

◇除雪を担う方の高齢化や人材不足により福祉除雪も限界もなっているの中で、福祉除雪全体の見直しの中で置き雪対策も含めて総合的に検討してまいりたい。



【質問】

冬期間、町内の各道路においては住民の生活に支障が出ないよう道路管理者による除雪が行われておりますが、道路沿いに住む住民の方は、毎回、広い道路から玄関前に寄せられる置き雪に長年苦勞されてきたことと思っております。

市街地においては、早くから流雪溝を整備して除雪の対応をしておりますが、高齢化により国道、道道沿いに住む方と同様、歩道の雪は何とか自力で処理できるが、道路から寄せられた雪は重くて固いので何とかして欲しいという声もあっております。

【答弁】 鎌田町長

一方、郡部の方では、道路から30m以上離れていれば福祉除雪として町のロータリーやタイヤシヨベルなどの機械で道路から玄関先まで除雪してもらっておりますが、その基準に満たない高齢者の方は自分で何とかするしかないということである。当に苦勞されております。以前から国道、道道は管轄が異なることから町として対応することは難しいことだと思っております。これからも国道、道道沿いに面した所に住む高齢者世帯が、安心して地域で住み続けられるよう、除雪の置き雪対策を是非検討していただきたいと思いますので、対象者などの程度になるのかということと併せて町長に考えをお聞かせいたします。

国道、道道沿いに面した置き雪対策については、議員からご質問のありました国道、道道沿いにお住まいの高齢者世帯数についてお答えしたいと思います。本町には国道が2路線、道道が5路線あり、この道路に面している戸数は、全体で約200軒ほどではないかと推測しておりますが、そのうち65歳以上の高齢者のみで生活されている世帯数は、およそ130軒くらいであろうと思っております。

ご質問にありました除雪による置き雪の処理対策についてでありますが高齢化等によつて、だんだん自力での除雪が大変になってきたということや、小型の除雪機を購入したり、また、中には除雪サポート制度も利用しな

がら業者に除雪の委託をしている方もいらっしゃることを、私も十分承知しているところであります。

ただ、先ほど申し上げました約130軒の高齢者世帯を対象とするのであれば、町道も対象に含めて総合的な対策を検討しなければならぬだろうと考えているところであります。議員もご承知のとおり、この問題に

関する方も高齢により今のやり方では限界だというお話も各方面からいただいておりますし、ボランティア除雪についても本町に限界にきているので何とかして欲しいという声も伺っておりますので福祉除雪の全体的な見直しの中で置き雪の処理対策も含めて総合的に検討してまいりたいと考えております。

なる方も高齢により今のやり方では限界だというお話も各方面からいただいておりますし、ボランティア除雪についても本町に限界にきているので何とかして欲しいという声も伺っておりますので福祉除雪の全体的な見直しの中で置き雪の処理対策も含めて総合的に検討してまいりたいと考えております。

◆高齢者の一時預かりについて、緊急時でも対応できるように制度を充実させるべきではないか。

◇必要性は十分認識しておりますが、ベッド数やスタッフをそろえるといった課題も多く、今すぐに町がきめ細かく対応するのは難しいと考えておりますので、現状のサービスを十分に活用していただきたいと思います。

【質問】 高齢者の一時預かりの充実についてであります。在宅で高齢者を介護する方の中には冠婚葬祭などで急に出かけなくてはならない場合があると思っております。あらかじめ予定の立てられる冠婚葬祭などは、葬儀などは急ぎよのことであり、同居する高齢者を残して出かけられないということが多いのではないかと思っております。

この他に福祉除雪もあるのですが、担い手となる方も高齢により今のやり方では限界だというお話も各方面からいただいておりますし、ボランティア除雪についても本町に限界にきているので何とかして欲しいという声も伺っておりますので福祉除雪の全体的な見直しの中で置き雪の処理対策も含めて総合的に検討してまいりたいと考えております。

【答弁】 鎌田町長

高齢化が進む中では、こつした緊急時に在宅介護の高齢者を一時に預かってもらいたいということが要望も増えてくること

初めに、本町のショートステイの現状からお話しさせていただきます。在宅で介護を



〔質問〕 近年、子育て支援の

一環として、道内にお

いても給食費の無料化を

実施する自治体が増えつ

つあります。道内で最も

早く無料化に取り組んだ

◆子育て支援対策の一環として、学校給食費の無料化を実施し

忠鉢廣高議員

になる際の高齢者の一時

議員もご存じのとおり、

ていただく流れになって

すので、できるだけ計画

感じています。

ましたとあり道内にお

〔再質問〕 前向きに検討さ

答弁・鎌田町長

→質問にありまし

点も含めて試算もして

答弁・内山教育長

食というのは体をつくるという意味でとても大事な事柄だと考えており

ます。朝食の大切さは給食センターだよりに掲載して子供たちや保護者の皆様に啓発を図っています

りますが、町全体としても食によって人生を豊かにしていくということが大切だと思っております。

岩澤史朗議員

◆2030年札幌開業を目指す北海道新幹線のトンネル残土の問題は新聞でも大きく取り上げられているが、町としての対応はどのように考えているか。

◇環境保全対策の上からも重金属を含む土が出た場合には、安全な土と堆積地を分けて管理し、河川への流出防止対策もしっかりするように考えています。



質問

北海道新幹線については2030年の札幌開業までに212キロメートルがつながることになります。その76%はトンネルで、工事によって排出される土砂は東京ドーム13個分に相当する1600万立方メートルにもなるそうです。最近の新聞報道で八雲町のこと載っており、八雲〜長万部間16・9キロメートルの残土処分地に海岸近の草地在候補地

なっていたが、漁協などの反対によって残土の処分が白紙になったとありました。地元住民や漁協関係者は、重金属が地中に染み込んで海に流れ出るおそれがあるとして反対しているようですが、問題なのは検査結果は鉄道運輸機構が発表したものでなく、地元漁協が独自に調査し、検査結果を発表したことに端を発しているということです。

黒松内は、長万部〜黒松内〜蘭越間の15・5キロメートルのルートで途中に静狩がありますが、以前、私どもが調べてきた中では、金山があった場所であつたことから、亜鉛やヒ素といった重金属が含まれているという調査資料をいただいたことがあります。大成地区の残土処分候補地の形状は溪谷のようになっていて、そこに土を捨ていくということですが、道路からも近く、川にも近いので大雨の時には土砂が崩れ、土中に染み込んだものが最終的に朱太川に流れていくのではないかと懸念しています。

朱太川というのは本町の自然環境を語る上でシンボルであり、今年はその朱太川のアユが全国利き鮎会でグランプリを受賞し、また、カワシンジウガイも生息する貴重な清流であります。私はこのトンネル残土に起因して様々な風評被害が出るのではないかと心配していますし、自然環境を大切に守っていくという本町の強い姿勢を鉄道運輸機構に明確に伝えることが大事だと思っておりますので、現在の段階まで事業は進んでいるのか、また本町の残土処理候補地への対応はどうなっているのか、新聞報道のこと併せて町長の考えをお聞かせ願います。

答弁・鎌田町長

初めに、本町を通過する内浦トンネルの残土処理の経過からお話をさせていただきます。

平成24年6月に北海道新幹線の札幌延伸が認可されたことを受け、平成26年5月から9月まで発生土の受入れ希望者を募集してありますが、正式な受入れ候補地として鉄道建設運輸施設整備支援機構に紹介するまでには至らず、同年12月に旧豊幌町営牧場の一部であつた67・3ヘクタールの土地を候補地として機構側に紹介したところで

あります。その後、昨年からは候補地で環境影響評価調査が実施されており、調査結果については来年の早い時期に公表される見込みと聞いております。次に、発生土についてですが、内浦トンネルは総延長15・5キロメートルで黒松内の町域としては約7・3キロメートルの延長となり、東川地区で予定されている斜坑口からは5・2キロメートル分、約58万立方メートルの発生土が見込まれております。

内浦トンネルの工事発注については、長万部町側の約5キロメートルが平成29年3月頃に、その1年後の平成30年3月頃に出口側になる蘭越町側の約5キロメートルが、最後にその1年後に中間となる本町分の工事が発注となる予定で、掘削工事の工期はおおむね5年から6年ぐらいかかると聞いております。掘削ルートは、かつての鉱山周辺を通過することから発生土の一部には、自然由来の重金属が含まれている可能性も考えられておりますので、鉄道運輸機構では、これまでに本町区域内で5本の調査ボーリングを行っており、自然由来の重金属等についての試験を実施しております。仮に、自然由来の重金属が基準値を超えるような調査結果となった場合には、学識経験者で構成される掘削土対策検討委員会で検討された方法により対策工事が施工され、継続してモニタリング調査が実施されることとなりますが、本町としては環境保全対策の上からも十分な注意を払いながら関係機関と協議を重ね、慎重な対応をしていきたいと思っております。

野化が進み、現状では農地ではないという判断を農業委員会からもいただいで取得しておりますので即八雲町のような事例

には当たらないだろうと思っておりますが、もしも心配されるような発生土が出た場合には、河川への流出防止対策も含め

て堆積地や管理地を安全な土と分けて、しっかりと管理していくよう再度、鉄道運輸機構側に強く要請してまいります。

◆現状の福祉バスの他に利用者の希望に添ったきめ細やかな送サービスに対応するため、デマンド型バスのような小型車の導入を検討してはどうか。

◇本町の新たな交通体系の総合的な組み合わせを考える中で、デマンド型バスの導入についても検討してまいりたい。

【質問】 段々と高齢化が進み超高齢化している中で、本町においても高齢者の移動手段を確保することが課題となっております。

ことを総合的に考えてみると、高齢者が利用しやすいもう少し小回りの利くものが必要ではないかと思えます。

特に市街地から離れた所に住む高齢者の方は、どうしても車を手放せないということ、自らが自家用車を運転して買い物にきていますし、JRも大幅に減便となつて、俱知安方面には都合の良い時間に行けず困っているという話も聞いています。

例えば、何人かで乗り合いするデマンド型バスといわれるもので、自宅から目的の地までをドア・ツー・ドアで行けるようなきめ細やかな対応が今後求められてくるのではないかと思えます。

今のところは、福祉バスも本町に住民の足として定着しておりますし、移送サービスも最近是利用しやすくなって皆さんも喜んでいらっしゃるということがあります。

本町においても超高齢化が進んでいる状況、あるいは学校の生徒の数といったものを勘案しながら、福祉バスやスクールバス、JRなどの公共交通も含めた総合的な交通手段の確保に向けた検討に入るべきではないかと思えますが、町長の考え

を伺います。

【答弁】 鎌田町長

初めに、本町の公共交通機関等の状況についてお話しさせていただきます。

本町の一般的な交通手段としては、JR北海道の鉄道、ニセコバスによる路線バス、民間事業者によるハイヤーがあり、それに町が運行する福祉バス、児童生徒のスクールバス、患者の移送サービスがあります。また、70歳以上の高齢者の方にはお出かけサポートとしてのタクシー券を交付しております。議員からもお話しがありました公共交通については、便数や運行区域が限られ利

便性に課題があることから、総じて福祉バスの利用が多い状況であると認識しております。

全国的な動きを見ますと、人口減少や少子高齢化が進むことによって移動弱者が増える反面、利用者の少ない路線バスは事業者が撤退し、その穴埋めをする形で地方自治体がコミュニティバスを運行していますが、徐々に運行範囲が広がり、結果として自治体の財政負担の増大を招き、路線定期型バスの運行が困難となるケースが出ていることから、近年、事前予約型の移送サービスであるデマンド型バスを導入する事例が増えているところで、このデマンド型バスは運行ダイヤや発着地を設定する自由度が高く、住民の需要や道路などの地理的条件に合わせて運行することが可能となることから、交通手段の確保対策として有効な手法の一つとされており、近隣ではニセコ町でニセコバス株式会社が事業者となつて運行されており、

デマンド型バスについての最大の特徴は、予約がないと運行しないという点であり、乗客がいなければ運行しないことから移送効率が改善され、自治体の財政負担軽減も期待されると考えられておりますが、一方では予約方法や運行範囲など利用時のルールをしっかりと利用者で理解していただく必要があること、さらには相乗りとしなければ一人当たりの運行経費は高い水準となつてしまつたため、少数での利用が増えるほど経費が増大していくという課題も持ち合わせています。

本町において新たな交通体系を検討する際には、鉄道や路線バス、ハイヤーなどそれぞれの特性を把握し、福祉バスやスクールバスの活用も含めた総合的な組み合わせを検討した上で、デマンド型バスがどのような人を対象として、どのような移動方法でどんなサービスを提供するか幅広く情報を集めながら検討していきたいと考えておりますが、実際に運行すると

【答弁】 内山教育長

スクールバスもデマンド型バスのように町内を循環させてはどうか、というお話でありましたが、スクールバスは補助金を活用して購入していることから運行に一定の制約がございます。

基本は学校の授業があるときでなければ運行していませんので、常時の運行というのは難しいだろうと思っておりますが、平成29年度でスクールバスの購入を予定しておりますので、他町村の事例や補助金による制約のことなども詳しく調査研究させていただきたいと思っております。

議会の動き

12月

- 8日 議会運営委員会
- 12日～第4回定例会
朱太団地改修等調査特別委員会
- 23日 黒松内つくし園クリスマス会
- 26日 歳末防犯パトロール

1月

- 5日 黒松内消防団出初め式
- 6日 新年交礼会
- 15日 松寿会新年祝賀会

2月

- 3日 第1回臨時会
町民体育館建設等調査特別委員会
- 16日 後志町村議会議長会定期総会（札幌市）
- 26日 ふれあい雪まつり

3月

- 2日 議会運営委員会
- 6日～第1回定例会

議会を傍聴してみませんか？

議会のうごきをあなたの目で耳で

☆ 第1回定例会は、3月6日（月）から開会中です。

☆ 詳しい日程については、町ホームページをご覧ください。議会事務局に直接お問い合わせ下さい。

議 会

豆 知 識

一般質問とは…

議員が町の行財政全般に対して町長や教育長に疑問点を問い質し、事務の執行状況や将来の方針等について説明を求めるものです。

広報編集委員長

副委員長

委員

” ”

忠鉢 廣喜
福本 誠一
富田 重義
田中 春治
蛸沢 儀弘

編集後記

議会広報197号をお届けいたします。内容は、第4回定例会、各臨時会、平成27年度決算審査特別委員会、朱太団地改修等調査特別委員会、町民体育館建設等調査特別委員会などの報告となっています。

今年は、例年になく積雪量が少ないようですが、これからは重い雪になります。お身体に十分気を付けて除雪等を行ってください。さて、町民に木のぬくもりを満喫できる総合体育館が4月下旬にオープンします。多くの町民に利用され、健康づくりに役立つことを願っています。

お 願 い



- ・議長宛の文書は、議会事務局までお届けください。
- ・この広報誌についてのご意見等がございましたら議会事務局までご連絡ください。

- 発行 黒松内町議会
- 編集 広報編集委員会

〒048-0192
北海道寿都郡黒松内町字黒松内302番地1
TEL 0136-72-3314（直通）
FAX 0136-72-3830
MAIL gikai@town.kuromatsunai.hokkaido.jp

この広報は、自然環境への優しさを考え、再生紙と大豆インクを使用しています。